

# JICA 中国事務所ニュース 7月号

## 目次

### 【最近のトピックス】

- ◎ 中国西部大地震に係る日中復旧・復興支援セミナーの開催 .....1
- ◎ 復興に向けて現地調査も実施！～様々な課題に直面する現地を視察～ .....2
- ◎ 日中 NGO シンポジウムが北京で開催！ .....3

### 【ニュース】

- 古賀所長、ラジオ番組に生出演！ .....4
- 首都風砂開発調査団がオリンピック記念植樹祭を開催 .....4
- 「金沙江貧困対策プロジェクト」事前調査が実施 .....5
- 広州院内感染対策プロジェクト終了時評価調査  
～キーワードは連携&ネットワーク～ .....5
- ボランティア総会開催 ～リハビリ専門家との交流も～ .....6
- 「北京 ODA マップ」完成 .....7

### 【人の動き・主要行事】 .....7

### 【寄稿コーナー】 .....7

### 【帰・赴任者紹介コーナー】 .....8

## 最近のトピックス

- ◎ **中国西部大地震に係る日中復旧・復興支援セミナーの開催**  
～日本の経験と教訓を紹介～



震災後の復興について活発に議論しました

本セミナーは、JICA と中国住宅・都市農村建設部の共催により、7月1日、2日の両日、北京市で開催され、マスメディアを含む日中

関係者約 130 名が参加しました。

中国西部大地震が発生してから 1 ヶ月半が経過し、政府や被災地の中心課題は緊急救援から復旧・復興に移り始めています。JICA としては、緊急援助物資の供与、国際緊急援助隊の派遣に続き、本セミナーにおいて震災後の復旧・復興にかかる日本の経験と教訓を中国側と共有し、中国政府の取り組み状況、課題および今後の協力に係るニーズを確認することが開催の狙いです。

森民夫長岡市長を初めとする日本側講師 9 名は、1995 年の阪神・淡路大震災、2004 年の新潟県中越地震の復旧・復興における日本の経験と教訓を参考事例に、地方政府の役割、コミュニティ再建、復興計画策定、市民

の参加と行政との連携、仮設住宅の建設・管理、建築物の補強及び耐震基準と耐震改修、生活再建等をテーマに講演を行いました。

中国都市計画設計研究院都市計画所尹強所長を代表とする中国側講師は被災地復旧・復興作業の基本方針、戦略、復興計画作成の過程と課題、仮設住宅の建設状況についてプレゼンテーションを行い、その後、双方の発表内容をベースに、日中双方の参加者は活発な議論を行いました。

さらに、復興事業における課題・ニーズについて、中国側専門家や研究者、政府関係者はそれぞれの視点から分析し、有意義な提言を数多く示しました。そのうち、緊急課題として、建築廃棄物の処理・再利用、土砂災害等の二次災害のリスク管理、再建場所の選定・確保が挙げられた一方、中長期的な課題として、中央・地方政府の応急対策・防災能力の向上、建造物の耐震技術等の現場の技術人材の養成、国際的な防災教育基地・情報センターの構築等も挙げられました。

被災地の復興は住宅の再建や生活の再建、経済の復興等を含む総合的・長期的な事業です。中国政府は資金・物資の調達や復興条例の公布、復興計画の作成等の取組みに既に着手しています。頻繁な自然災害との戦いから培ってきた日本の防災経験等を日中技術協力のルートを通じて中国側に伝え、復興事業の一助となることを願っています。  
(業務班 鮑迪娜)

### ◎ 復興に向けて現地調査も実施

#### ～様々な課題に直面する現地を視察～

北京での二日間のセミナーに続き、7月3日、4日の両日、セミナー日本側講師を含む16名が復興支援に係る現地ニーズを調査するため、四川省建設庁のアレンジにより成都市、都江堰市および綿竹市を視察しました。

成都市の北西40km離れた都江堰市では建物の9割が使用不可能となり、仮設住宅団地の建設が進められていますが、仮設住

宅の管理は行き届いている様子でした。中国の都市部においては、集合住宅が一般的ですが、建物の建直しに当たり、土地・家屋所有権の確認や補助金制度の作成などの課題に直面しています。



1万戸の仮設住宅が急ピッチで建設中(綿竹市)

次に訪ねた綿竹市は成都市の北140キロに位置し、52万人が生活する中等規模の街です。最初に調査した遵道鎮棚花村は農村地区であるため、殆どが一戸建てですが、ほぼすべての家屋が地震により壊滅状態でした。棚花村には仮設住宅を作る予定はなく、テント暮らしから直接恒久住宅建設に移行することを計画しています。

帰路、1万戸の仮設住宅が急いで建設されている現場を見ました。まだテント暮らしが続いている多くの被災者の皆さんがいち早く仮設住宅に入居できることを祈りました。

2日目の四川省建設庁との協議において、被災建造物の応急危険度判定制度と建築廃材の有効利用が話題となりました。神戸市の専門家などからは廃材の多くは、海に近い立地条件から埋立てに使われ、一部はコンクリートブロックの材料に使われたことを紹介しました。また、環境・資源への配慮から、建築廃材をコンクリートの骨材として使用する可能性についても話し合われました。四川省建設庁は今回の地震で出た建築廃材の一部を仮設住宅の基礎工事に利用したことを紹介しました。

今回の調査では、復興活動における中国政府の対応の早さに一同驚きました。日本人専門家の話によると、仮設住宅の建設に

ついて日本ではおよそ2ヶ月を要するのに対し、今回の地震ではほぼ1ヶ月以内に初期の建設が完成したとのことであり、作業のスピードを高く評価しました。仮設住宅団地では下水処理施設もあり、街灯には省エネ電球が付けられ、環境・省エネ対策も配慮されています。被災地のこうした状況を踏まえ、中長期の協力の可能性について十分検討しなければならぬと感じました。

(業務班 邢軍)

### ◎ 「日中 NGO シンポジウム—障害者支援をめぐる」を北京で開催



日中 NGO のネットワークが深まりました

6月26、27日の2日間にわたって JICA 中国事務所と中国国際民間組織合作促進会(CANGO)の共催により、「日中 NGO シンポジウム—障害者支援をめぐる」を北京・二十一世紀飯店にて開催しました。

現在中国には約8300万人の障害者がいると言われており、障害者支援分野において NGO の活動は活発になっていると同時に、国際協力のニーズも高まっています。また今年は北京パラリンピックの開催や、5月に発生した四川大地震の影響から障害者数の増加も予想されていることもあり、この分野に対する関心は一層強まっている状況にあります。そのような背景もあり、今回障害者支援にテーマを絞って、日中両国 NGO 間の情報交換、ネットワーク強化、経験交流等を進めることを目的としたシンポジウムを実施しました。

当日は日本側11団体、中国側46団体の NGO の参加をはじめとして、在中国日本大使館、中国民政部民間組織管理局など120人余りが出席し、全体会議、障害者の生活支援と就労支援に係る各分科会、関連施設の見学などを行いました。

全体会議では、中国障害者連合会張宝林理事、法政大学現代福祉学部の松井亮輔教授による基調講演で両国の障害者支援の現状が紹介され、また日本障害者分野 NGO 連絡会や中国障害者 NGO データベースについての発表も行われました。分科会では、各団体がそれぞれの活動を紹介した上で、活発な議論が行われ、日中双方の状況について相互理解が進んだものと思われます。

二日目には、障害者支援 NGO である北京紅丹丹教育文化發展センターと豊台利智リハビリセンター、JICA 技術協力プロジェクトを実施している中国リハビリテーション研究センターを見学し、日本側参加者からは参考になったとの声も聞かれました。



これからの NGO の協力について話し合いました

最後の交流会も含め、シンポジウム全体を通じて、日中双方の団体の意見交換は非常に活発に行われました。シンポジウムの総括では、日中双方の NGO 団体から、今後も交流を進めていきたいとの意見も出されるなど、今後は各団体間の連携・協力につながっていくことが期待されます。実際、シンポジウム終了後に、早くも具体的な検討が進められているとの話も聞かれています。JICA 中国事務所としても今後のシンポジウム開催や



参加団体へのフォローなどについて検討して  
いきたいと考えています。

(相互理解班 坂元芳匡)

## ニュース

### ■ 古賀所長、ラジオ番組に生出演！ ＜中日インターネット対話 2008年夏の対話＞



日本の緊急援助についてリスナーに熱く語りました

さる7月8日、古賀所長が、中国国際放送局の日本語サイトの生放送に出演しました。7月2・3日に当事務所が中国住宅農村都市建設部と共催した「中国西部大地震に関わる日中復旧・復興支援セミナー」がきっかけとなって実現したものです。中国国際放送局(CRI)の日本語放送は中国で最初の海外向け放送として戦前から始まり、日本では「北京放送」の名前で知られています。ニュース、番組など一日の放送時間は8時間で、近年の若年者の短波ラジオ離れを受け、インターネット放送に力を入れています。

「中日インターネット対話」はインターネット・ライブ番組で、日本と中国の有識者(パネラー)が特定のテーマについて討論するという企画です。第6回目となる今回は、中国の四川省で発生した大地震における救済活動を踏まえて、「自然災害 中日両国はどう立ち向かう？」がテーマとなりました。

番組では、当事務所の古賀所長と清華大学の顧林生公共安全研究所長がゲストとして参加し、それに四川大地震後の被災地で取材したCRI日本語部の姜平記者、パーソナリティーの王小燕アナウンサーを加えた計

4人が日本の緊急援助隊の派遣を通じて日中間の相互理解が一層深められたこと、災害救助に国境はなく、国際社会の連携が重要であること、また特に日本の震災後の救援や復旧・復興における経験から学ぶべきことが多く、今後、防災に対する取り組みや四川省の復旧・復興に向け両国の協力が一層求められることなどを話し合いました。

当日は、放送開始の1時間前にスタジオ入りしましたが、差し入れのお弁当が届かないというハプニングがあり、お腹をすかしたまま午後7時のオンエアとなりました。また、機材の調子が悪く、開始10分前までバタバタと調整が続くなど、ちょっと慌てる場面もありましたが、無事、8時30分に放送は終了しました。(業務班 奥田久勝)

※ こちらのURL

(<http://japanese.cri.cn/other/08jpn-chi/wldugf2.htm>) で番組を開くことができます！！

### ■ 首都風砂開発調査団がオリンピック記念植樹祭を開催！



地元住民や学生も植樹に取り組みました

環境問題の一つとして対策が急がれている黄砂。JICAは、北京市周辺に降り注ぐ黄砂の被害地域において、モデル林の造成、住民参加による植林計画の策定等を含む総

合的風砂対策計画の策定を支援していますが、去る6月28日(土)、同プロジェクトを実施中の北京市園林緑化国際項目合作管理弁公室と、JICA「首都圏風砂被害地域植生回復モデル計画調査」調査団は、北京市近郊の延慶県白草洼村において、共同で植樹祭を開催しました。

「グリーンオリンピックを迎え、生態障壁を築く、友好の使者になろう—大都会北京と農村の交流」と銘打って開催されたこの植樹祭には、延慶県林業局長他地元政府関係者、白草洼村村民、北京林業大学の学生等が多数参加したのに加え、一般公募で参加を申し出た在北京の日本人も駆けつけ、約80名がスコップを片手にアブラマツ、マルバハゼ、コノテガシワ、カエデなどの樹種約130本を植樹しました。地元の村人たち、澆刺とした若い学生さん、そして日本人と一緒に汗を流して植樹した「日中友好の木々」が、オリンピックを経て今後すくすくと育っていくことを願ってやみません。(総括次長 岡田実)

#### ■ 「金沙江貧困対策プロジェクト」事前調査を実施

6月30日から7月10日まで「涼山州金沙江流域生態退化地区における総合貧困対策モデルプロジェクト」の本格的な実施に向け事前調査が行われました。

本プロジェクトは、四川省涼山州金沙江流域の協力対象地区において、自然環境と調和した営農支援・住民支援体制の確立を目標とした総合農村貧困対策にかかる技術協力プロジェクトです。

本調査は今後プロジェクトに関する基本計画策定のための事前評価調査で、プロジェクト実施に向け実施体制、内容、日中両側の投入について協議を行い、最終日に調査団と涼山イ族自治州政府の間でミニッツに署名しました。

天候により調査は5つの対象県のうち美姑県のみを対象として実施しましたが、既存の調査資料などにに基づき、西昌で州政府とモデ

ル村の絞込みや、今後の活動内容及び日中両方の負担事項等についてお互いに意見交換を行い、プロジェクトの基本的な実施方針の案を固めました。

本プロジェクトは「普及モデル」の良し悪しが成否を分けるものと思われます。「成果」として挙げられた項目毎の内容は当然達成する必要がありますが、関連機関の連携、農民自身による自主的活動と行政との連携など「総合的な連携モデル」としての視点も重要です。

今後プロジェクトを通じてこれらの目標の達成が期待されます。(業務班 林哲浩)

#### ■ 広州市院内感染対策プロジェクト終了時評価調査 ～キーワードは連携&ネットワーク～



手洗い徹底のチェック

(プロジェクトによって医師・看護師が一緒になって、院内感染対策を促進する雰囲気生まれました)

2008年6月、広東省広州市では公式発表で最高気温36.6度、体感では40度を超える暑さの中、調査内容も大変ホットな(?)日中合同終了時評価調査が行われました。

本プロジェクトは、広州市でアウトブレイクしたSARS(重症急性呼吸器症候群)をきっかけに、重大感染症対策を含む院内感染対策の強化を目的として2006年12月より始まったものです。本プロジェクトでは、中国側は、広州市科学技術局、広州医学院第一附属医院(広州一院)及び広州呼吸疾病研究所(呼吸研)、広州市疾病予防コントロールセンター(広州市CDC)がカウンターパートとなり、日本側は広東省・広州市と姉妹友好関係に

ある兵庫県・福岡市を中心として様々な病院（神戸市立医療センター中央市民病院、福岡市立こども病院他）、研究機関（福岡県保健環境研究所、国立感染症研究所他）が協力機関となるなど、日中共に多くの機関が関与してきました。



ICTにおける院内感染対策の検討会の様子

今回の終了時評価調査では、院内感染対策“広州モデル”として、予想以上に大きな成果を生み出すことが出来たことが確認できました。このモデルの特徴として、第一に、日本の院内感染管理体制を参考として、帰国研修員が中心となって、広州一院／呼吸研において ICT(感染コントロールチーム)体制を導入し、院内感染管理科と検査科・薬剤科及び各臨床科室の連携、また医師・看護師等の職種間の連携を促進する体制が構築されたことが挙げられます。第二に、広州一院／呼吸研と広州市 CDC の連携が強化されたことも特徴の一つであり、今回参团した中国 CDC 団員からも「是非この連携の効果を総括して中国 CDC にフィードバックして欲しい」と高く評価されました。

このような大きな成果があげられたのも、日中それぞれ多くの機関が積極的に協力を進めたお陰ではないでしょうか。院内感染対策には様々な方法がありますが、本プロジェクトでは多数の機関が関わったことによって、協力の幅と深みを増すことができ、より広州の現状にあった対策を選択できたのではないかと思います。また、終了時評価においては、こうした多機関の関与には、組織的ネッ

トワークに加えて関係者のヒューマンネットワークが効果的に作用したことも強調されました。JICA 技術協力プロジェクトではあまり前例が多くありませんが、姉妹友好関係にある地方自治体を中心とした技術協力に今後の大きな可能性が感じられました。

終了時評価調査は、日中それぞれの関係者が、こうした連携やネットワークをプロジェクト終了後も継続・強化していくことを確認して杯を交わし、幕を閉じました。

(業務班 桑内美智子)

#### ■ ボランティア総会 開催！ ～リハビリ専門家との交流も～



分科会では専門家との意見交換がはずみました

6月14日から18日にかけて、2008年度夏季ボランティア総会が北京にて実施されました。この期間、中国に派遣されている青年海外協力隊及びシニア海外ボランティアは総会参加の他に、健康診断の受診、職種毎の分科会活動などを行っています。

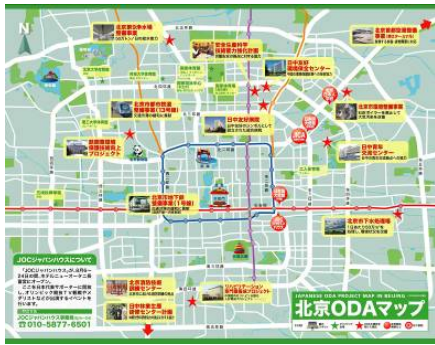
理学療法士隊員5名は分科会活動として、JICA技術協力プロジェクト「中西部地域リハビリテーション人材養成プロジェクト」の奈良専門家及び多田業務調整員に参加していただき、プロジェクトの説明及びプロジェクトから見た中国のリハビリの現状についてお話を頂きました。隊員にとっては中国全体のリハビリに関する動向を俯瞰的に教えていただくことは今後の活動に大いに反映されることであり、また隊員からは地方の現状について専門家にお知らせすることができました。

中国という同じ国で、同じリハビリ分野で



活動する専門家とボランティアが今後もいろいろな形で交流していけたら、と思っています。(ボランティア調整員 今間智子)

### ■「北京 ODA マップ」完成!



オリンピック会場と ODA 案件の位置が一目で分かります

いよいよ北京五輪まで残りあとわずか。日本や中国各地からもたくさんの観光客が北

京を訪れることが予想されます。この機会を狙って、これまで北京市内で実施してきた ODA 案件をもっと広く一般市民の皆さんに知ってもらおう!と、大使館・JICA・JBIC の広報担当者が知恵を絞って作成したのがこの「北京 ODA マップ」です。ちょうど持ち歩くにも便利のように折りたたんだ形の A5 サイズですが、表面には対中 ODA の歴史や案件リストが、裏面を広げると北京市内五環路までが入る大きさの A2 サイズのイラスト地図に、主要な ODA 案件や五輪会場がプロットされています。皆さんも是非1部片手に持って、五輪観戦にお出かけ下さい!

(総務班 植村史香)

## 人の動き ・ 主要行事

### (1) 主な調査団(派遣中・派遣予定)(7月)

- ・ 中西部地区リハビリテーション人材養成プロジェクト運営指導調査(遠隔教育システム整備団員)(7/13~7/19)

- ・ 涼山州金沙江生態退化地区貧困対策プロジェクト事前調査(6/29-7/12)

### (2) 7月の主要行事

なし

## 寄稿 コーナー

### 「日中 NGO シンポジウム障害者支援をめぐって」に参加して



草の根レベルでの交渉が深まりました

6月26日と27日に JICA 中国事務所と CANGO の共催による、第二回日中 NGO シンポジウムが北京の21世紀飯店にて開催され、日本からは11団体から14人のひとりとして私も参加しましたので、感想を書かせていただきます。

中国側の参加者が61名という大人数だったのはうれしい驚きでした。というのはこれまでは政府系の中国の障害関係団体については、日本でも関係者によく知られていましたが、他に CANGO に加盟する障害者支援に

かかわるNGOが多いくるというのははじめて知ったからです。参加した多くは草の根レベルで活動しており、障害別では知的障害者支援にかかわる活動が多くみられました。

全体会、分科会を含めて中国側と日本側との率直な情報交換が行われました。住宅改造やスポーツ、障害者団体などに関する日本の状況への質問が相次ぎました。コミュニティでの市民の意識では偏見があることも具体的にわかり、これは双方ともに共通の課題であることも認識しました。また、シンポジウムの前後に盲文出版と北京市内で知的障害者に中国の芸能や絵を描く活動を行うコミュニティサービス組織を訪問する貴重な機会がありました。盲文出版は点字図書や先端技術の開発が行われており、コミュニティサービス組織は、専門家によるサービスを提供するというより、海外からの訪問客の前でパフォーマンスを行うなど障害のある人がいきいきできる活動の場を提供していたのが印象的でした。中国側、日本側ともに今後の交流への関心が高いことがわかりましたので、なん

らかの形にできないか、一緒に考えたいと思います。



これからのNGO同士の協力が期待されます

(日本障害者リハビリテーション協会 上野悦子)

## 帰・赴任者紹介コーナー

### (1) 長期専門家 岡田美和



日中友好環境保全センターで、今年秋から始まる予定のプロジェクト「循環型経済推進プロジェクト」の業務調整員として再度赴任しました、岡田美和です。よろしくおねがいます。

4+αのプロジェクトが有機的連携を図りつつ一つの目標を目指すプログラム型という

スタイルとなりますこのプロジェクトがスムーズに立ち上がるよう、専ら調整・準備業務を推進しております。

北京でもまた中国のどこにいても写真のような青空が毎日(7月8日朝東三環路にて撮影)私たちを見守ってくれるよう、中国スタイルの循環型社会が構築されることを目指し、業務に励みたいと思います。

(長期専門家 岡田美和)



## (2) 長期専門家 竹島睦



6月末からスタートしたばかりの、中国「節水型社会構築モデルプロジェクト(効率的な水資源管理)」のリーダーとして赴任しました、竹島睦(まこと)です。よろしくお願いします。立ち上がったばかりの真新しいオフィスで、泉業務調整員とともに事務運営を軌道にのせるべく奮闘中です。

日本の水資源管理の経験を活かしつつ、中国の社会にふさわしい水資源管理制度の改善や利水計画づくり、豊かな河川をめざした生態環境流量の確保などに取り組むことになります。中国での生活は初めてですが、文化や習慣の違いを楽しみながら、中国の水問題の解決の一助となれるよう頑張ります。

(長期専門家 竹島睦)

## (3) 長期専門家 泉博隆



6月23日に節水型社会構築モデルプロジェクト(効率的な水資源管理)の業務調整員(研修・啓発担当)として赴任しました泉と申します。

これまで、中国との係わりでは、山東省済

南市に留学後、在重慶総領事館において、中国西南地域の経済に係る研究や草の根無償資金協力の業務に携わり、その後、世銀北京事務所にて案件の管理等を行って参りました。

節水型社会構築プロジェクトでは、水利部がカウンターパート、鄭州と淄博がモデル都市であり、関係機関が中央政府・地方都市と幅広いですが、中国における水資源管理につき知見を深めつつ、プロジェクトが円滑に進むよう日々、努力して参りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

(長期専門家 泉博隆)

## (4) 新所員 宗雪



皆様、はじめまして、今年の7月1日に採用されました宗雪と申します。これから皆様と一緒に仕事ができることになり、本当に嬉しいです。今後どうぞよろしくお願いいたします。

北京工業大学外貿日本語学科を卒業したばかりの新卒なので、職場の経験がなく、勉強すべきことが沢山ありますので、皆様にご指導いただけますようお願いいたします。

入所しましてまだ半月ですが、事務所の雰囲気、スタッフの方々がとても温かく、楽しく充実しています。入所した時より段々慣れてきましたが、これからもっと責任を持って一生懸命仕事し、優秀な所員になるように頑張っていきたいと思います。どうぞ、よろしくお願い致します。

(業務班 宗雪)



独立行政法人 国際協力機構  
中華人民共和国事務所

北京市朝陽区東三環北路5号 北京發展大廈400室 郵便番号：100004  
TEL：+86-10-6590-9250 FAX：+86-10-6590-9260

=====  
\* 皆様からの情報提供、大歓迎です。また、本紙に対するご意見、ご提案などいただければ幸いです。いずれも中国事務所沈 曉静(shenxiaojing.cn@jica.go.jp)あてにお願いいたします。  
=====

\* その他お知らせ

JICAのホームページ： チャイナ ライブラリー（和文・中文）

> <http://www.jica.go.jp/china/library/news/index.html>

> <http://www.jica.go.jp/china/chinese/library/01.html>

チャイナ トピックス（和文・中文）

> <http://www.jica.go.jp/china/topics/index.html>

> <http://www.jica.go.jp/china/chinese/topics/index.html>